

文化財ニュース いわき

第 56 号

平成 9 年 9 月 13 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1

TEL 0246 (43) 0391

広範囲におよぶ郡役所跡の調査

－平成9年度根岸遺跡の範囲確認調査－

根岸遺跡の範囲確認調査は平成2年度から始まり、今年度で8年目となります。昨年度までの調査によって、本遺跡北側の台地と中央沢部では、郡庁院ぐんちやういんや正倉院しょうそういんの一部が明らかになり、昨年度は中央沢部から玉造郷たまつくりごうや泊田郷とまりたごうなどの郷名が記された文書木簡もんじよもつかんや荷札木簡にふだもつかんが出土して注目を集めました。

今年度は藤間のトウボウジ地区（本遺跡南側の台地）について、8月から調査を行っています。これまでに郡役所ぐんが（郡衙）に関連する掘立柱建物跡や竪穴住居跡などがたくさんみつかっています。今回の調査によって、磐城郡衙に関連する建物跡は、南北500mの範囲におよぶことも明らかになりました。



根岸遺跡南側台地の中央部を掘る（多数の掘立柱建物跡を検出）



東西に長い掘立柱建物跡（四面廂付建物跡）

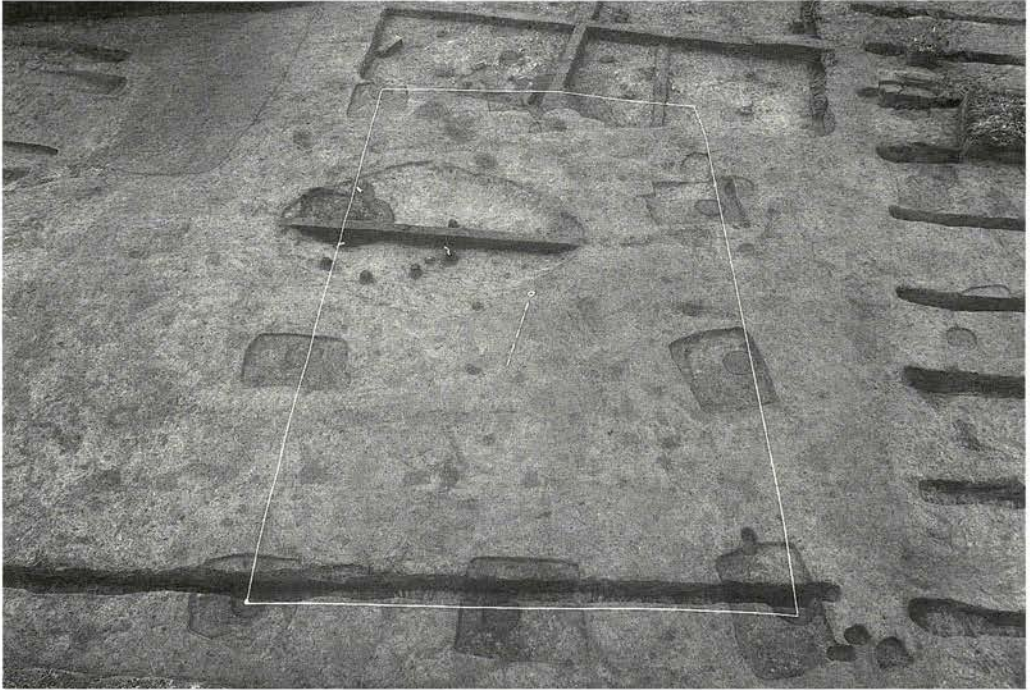


柱の抜き取り痕跡がみられる

ほったてばしらたてもものあと
掘立柱建物跡

東方に太平洋が一望できる台地の中央平坦部に7棟の掘立柱建物跡が見つかり、合計58棟となりました。

建物跡の大きさは2間×3間・3間×5間・5間×5間など、さまざまなものが確認されています。とくに3間×5間の建物跡は、平坦部中央に位置し、四方が小さな柱穴によって囲まれています。この柱列の柱間（柱と柱の間）と建物跡の柱間が同じことから、この



南北に長い掘立柱建物跡（竪穴住居跡より古い）

建物跡は、四面に^{ひさし}廂が付く格式の高い建物跡と考えられます。また建物の柱はすべて抜き取られており、別の場所へ建て替え（再利用）られたことも考えられます。

この建物跡を中心として、^{むね}棟方向が同じ建物跡、あるいは直行する建物跡が東西に数棟確認されています。東側には5間×5間の四隅内側に小さな柱が付く、ほぼ方形の特異な建物跡のほかにも数棟があり、西側には2間×3間の南北に長い建物跡などがみられます。



柱の痕跡がよく残っている



大型竪穴住居跡（一辺9.5mを測る）



竪穴住居跡のカマド

たてあなじゅうきょあと 竪穴住居跡

今回の調査によって、竪穴住居跡は5棟みづかり、延べ40棟を数えます。

竪穴住居跡は^{ほうけい}方形で、深さは約1mもあり、床の周囲には^{はいすいこう}排水溝が掘られています。一辺のほぼ中央にはカマドが付設されており、トンネル状につくられた^{けわり}煙出しは約2mも家の外に延びています。カマドからは、^{にた}煮炊きに使ったたくさんの土器（土師器）が出土しています。